



DFGがやってきた！ 笑顔で交流



10月23・24日の二日間、姉妹校提携を結んでいるイギリスのダートフォードグラマースクール（DFG）から34名の高校生が来校しました。DFGとの交流が始まったのは12年前。歓迎式では、日本語教員のシン普森先生から「この日が来るのを毎年心待ちにしています」と挨拶があり、生徒全員が日本語で、ラグビー・サッカー・ゲーム・アニメなど自分の趣味を紹介しました。中学生との交流授業では、中3はスライドを使って学校紹介をして交流しました。班に分かれて全員が英語で向陽中の行事や部活動を紹介しましたが、自分の英語はDFG生に伝わっているのかドキドキでした。

中1は綾取りやコマ回しなど日本の遊びを一緒に楽しみ、最後は恒例のジャンケン列車で大盛り上がりでした。中2は例年グラウンドでミニ運動会をするのですが、雨により武道場で剣道を体験しました。どの活動にもDFGの皆さんは興味津々。それに応えて向陽生も英語は片言でも積極的にコミュニケーションをとっていました。外国人とのコミュニケーションは慣れるのが第一。きっと「もっと英語を話せるようになりたい」と英語学習への意欲を新たにした生徒も多いことでしょう。また、今年はラグビーワールドカップが日本で開催中ということで、さよならパーティではDFG生の間で日本やイングランドの活躍の話題が持ちきりでした。



狂言に親しむ 芸術鑑賞会



16日、ジャーナリストの西谷文和氏を迎え、中高人権平和講演会が開催されました。西谷さんはアフガニスタンやイラクやシリアなど中東の戦場に出向き、銃弾や爆弾が飛び交う中、戦争の真実を伝えようとレポートした体験を熱く語りました。戦争を止める術は、大国の関わりや歴史など戦争が起きるメカニズムを解明していくことにあると訴え、メディアの情報を鵜呑みにせず、常に多面的にいろいろな角度から物事を自分で考えることの必要性を訴えました。

真実を伝える ジャーナリスト平和講演会



西谷氏 報道ステーションより

前期と後期の中間日（4日）は毎年中高で、落語や演劇など、いろいろなジャンルの芸術鑑賞会を催します。

今年は狂言を鑑賞しました。「盆山」「蝸牛（かぎゅう）」「棒縛（ぼうしばり）」の定番演目を、分かりやすく解説を加えながら演じてくれました。そして、体験コーナーもあり、中学生も舞台上に上がって狂言独特の節や言い回しを体験しました。このような日本の古典芸能に生で触れる機会は本当に貴重です。古典なので言葉はやや難しかったですが、慣れるうちに話の展開を理解して笑いもどっと起き、存分に楽しむことができました。